

愛友会四国連合会報

第 48 号
59. 10



目次

競争の時代……………愛媛電気通信部長……………二	公社のうごき……………二	電退連総会……………四	電退連事務局長打合会……………四	余 栄……………四	表紙のことば……………五	共済会だより……………五	OBサークルだより……………六	新刊紹介……………六	計 報……………六	随 筆……………六	梶浦 照秀 木村 利一	高 原 博 浜口 徳幸	政本 邦興 渡部 貞好	川 柳……………八	福田秋風郎……………九	編集後記……………九
--------------------------	--------------	-------------	------------------	-----------	--------------	--------------	-----------------	------------	-----------	-----------	-------------	-------------	-------------	-----------	-------------	------------

競争の時代

愛媛電気通信部長

藤 井 一 明



本年二月、西野前部長の後をうけて、愛媛通信部長となつてから、早くも九ヶ月が過ぎました。紙上で初めてお目にかかる方も多いと思います。よろしくお願い致します。

私が生をうけたのは北海道です。電電公社に入社するまで、そこで過しましたが、公社入社後は一度も勤務経験はありません。それとは反対に、広島で二度の勤務、このたびは広島から松山へと、西瀬戸に大変縁が深くなりました。

さて、皆様もすでにご承知のとおり、来年四月の公社の民営化は、ほぼ予定どおり進行することでしょう。即ち公社も一つの会社となつて、噂される、第二、第三の電電会社と競争して行かねばなりません。この競争原理の導入こそが、電電公社の経営形態変更の基本理念であり、我々も前向きに取組んでいます。しかし、この競争は、来年四月から始まるものではなく、もうすでに色々な分野で始まっています。

この競争の中で、我々の最も身近で、我々の足元で行われている競争が、端末機販売競争です。特にボタン電話機の販売合戦が大変

びしい状況の中で行われています。

愛媛通信部長の場合、ボタン電話機（ビジネス・ホン）の分野で、昨年の後半から、自営電話機販売攻勢が激しくなりました。この春からは一段と激しさを加え、五月、七月には、公社機器から自営機器に移行するなどして廃止されるものが、公社の販売数の百三十%、百五十%となり、公社のお客様がどんどん減り始めました。通信部では、このような事態になんとか歯止めをかけようとして、取扱局の皆さんと一諸になり、あの手、この手の戦術をくりだし毎月、毎月販売戦略を練っています。すでに競争の時代に突入しています。しかも非常に身近で行なわれています。民営化移行後、いわゆる本電話機が開放されれば、自・直商品の競争は更に激しさを増して来ることでしょう。相手の業者にとって、六千万個の電電公社の電話機は、垂えんの的なのですから。

我々は、先輩の皆さんが、長い間に亘って形成して来た公社のお客様を、引つづき我々のお客様として守って行くために努力して行かねばなりません。同時に、先輩の皆様も「販売特約店」、「お客様紹介」などを最大限に利用され、競争事代に突入している我々に絶大なご支援をお願い致します。



公社のうごき

四国管内電気通信事業の

五八年度決算まとめ

四国電気通信局では、このほど、昭和五八年度の四国における電気通信事業の決算をとりまとめた。

これによると、五八年度は電気通信サービスの一層の向上とINNSの形成に努めるとともに、財務基盤の強化にも努力し、事業の円滑な遂行を図ることができた。

五八年度の決算の概要は次のとおりである。

一、収支状況：収支率は改善

収益・費用伸び率の差もプラスで推移
収益は、一、三五六億円で、前年度に比べ六一億円の増加となった。これは通話料の値下げなど厳しい状況にあったが、お客様のご利用の増加に支えられつつ、プッシュホン、ビジネスホン等各種商品の積極的販売、テレホンサービスの勧奨等通話の利用促進など各種の増収努力によって対前年度増加率は、四・七%と前年度（三・八%）を大きく上まわった。

一方費用は、一、六二三億円で、前年度に比べ五六億円の増加となった。これは月次決算を軸とした業務の見直しなど経費の効率的使用に努めたことから、対前年度増加率は三・六%と前年度（三・八%）より低くおさえることができた。

この結果、収支差はマイナス二六八億円（対前年度五億円の赤字縮小）となり、収益と費用の対前年度伸び率の差は一・一ポ

インットのプラスギャップとなり、収支率(増減率×100)は、一一九・八%で前年度より改善することができた。

収支状況の前年度比較

(単位：億円)

区 分	58年度	57年度
収 益	1,356	1,294
対前年度増減率(%)	4.7	3.8
費 用	1,623	1,567
対前年度増減率(%)	3.6	3.8
収 支 差 額	▲ 269	▲ 273
対前年度増減額	5	▲ 11
収 支 率(%)	119.8	121.1

二、収益：一、三五六億円

対前年度比 四・七%の伸び

収益の内訳は、電話収入が一、二〇四億円で全体の八九%を占め、前年度に比べ五二億円(四・五%)増加したほか、専用収入は七七億円(七・七%)の増加、専用収入は七七億円(九・六%)の増加となった。しかしながら、電信収入は一五億円で一億円(▲八・四%)の減少となった。

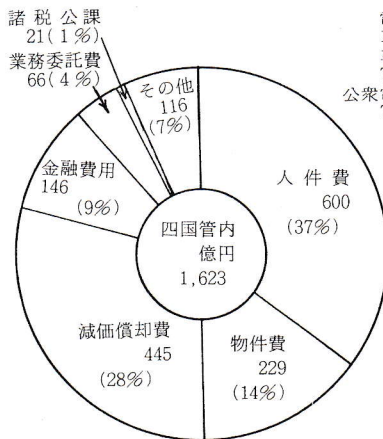
三、費用：一、六二三億円

対前年度比 三・六%の伸び

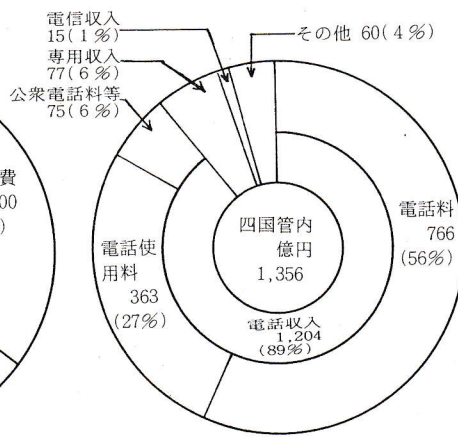
費用の内訳は、人件費、物件費の合計が八二九億円で全体の五一%を占め、前年度に比べ五〇億円(六・五%)増加した。業

四、

58年度費用の構成比



58年度収益の構成比



務委託費は六六億円で二億円(二・六%)、諸税公課は二一億円で一億円(四・九%)の増加となったが、金融費用は一四六億円で八億円(▲五・五%)減価償却費は四四五億円で三億円(▲〇・八%)の減少となった。

建設投資：五五五億円
対前年度二六億円の増加
建設投資は五五五億円で前年度に比べ、

二六億円(五・〇%)の増加となった。
この建設投資額をもって「すぐつく、すぐつながる」電話の維持に努めたほか、INSの形成を図るため通信網のデジタル化を推進するなど電気通信サービスの拡大・改善に努めた。

四国INS展示ルームを開設

昭和六〇年三月オープン予定

四国電気通信局では、電電公社が推進しているINS(高度情報通信システム)を、お客さまに広く周知し、より一層理解していただくため、INS関連機器等の展示の拠点として、「四国INS展示ルーム(仮称)」を開設することとし、九月二十五日、新築工事の「くわ入れ」を行った。オープンは六十三年三月の予定である。

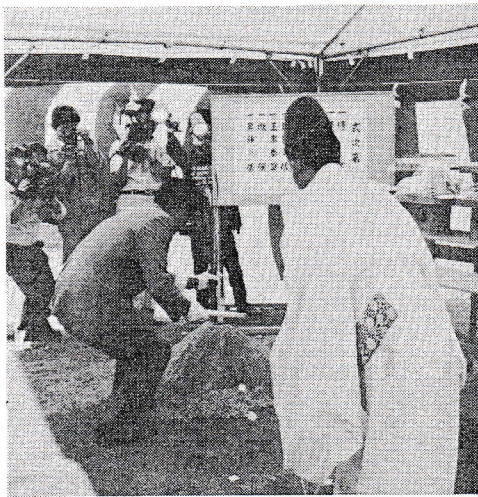
この展示ルームは、テレビ会議システム、デジタルファクシミリ、デジタルキャプテン等を展示し、来館者がINSにおける新技術、新サービスを気軽に楽しみながら、直接触れ、操作体験ができるようにしている。

また、この展示ルームは、六十年三月から、筑波学園研究都市において開催される国際科学技術博覧会(60.3.17~60.9.16)に開設する公社パビリオン「でんでんINS館」のサテライト会場として利用することにしており、このINS館と展示ルームをデジタル伝送路で結び、映像モニターにより博覧会場を見ることができるとなる。居ながらにして会場の雰囲気を感じることが出来る。

●設置場所 四国電気通信局敷地内

(南西側)

●建物の概要 鉄筋二階建、延約四〇〇㎡
なお、この工事に伴い、同建設現場に設置されている「俳句の里めぐりの城下コース三番目」にあたる夏目漱石の句碑も現在地より約二〇m北側へ移設することとし、九月十九日に解体、十月三日には新設置場所での築造を終える。



電退連総会

電電公社退職者団体連合会では、六月七日、東京港区高輪、新高輪プリンスホテルにおいて、第十五回定例総会を開催し、電友会四国連合会から泉会長が出席した。

議題は次のとおり。

- 一、昭和五八年度事業報告書承認の件
 - 二、昭和五八年度収支計算書承認の件
監事監査報告
 - 三、昭和五九年度事業計画(案)承認の件
 - 四、昭和五九年度収支予算(案)承認の件
 - 五、役員選任の件
- 一、四についてはいずれも原案通り可決、五については、今期は役員改選期に該当し、その改選に際し行広清美会長からこの総会を期に役員を辞任したいとの申出があり、協議の結果、井上俊雄氏が会長に選任された。

電退連事務局長打合せ

五十九年度全国事務局長打合会議は、七月十八日東京・京橋会館において開催された。公社から、総裁室企画室石井康雄次長、秘書課織田輝彦調査役、厚生局青木信夫厚生課長、田中寿雄共済課長、松尾一伸共済課長、補佐、本部から井上俊雄会長、武田輝雄副会長、今井一郎常任理事、嬉野猷次事務局長、笹原正夫次長および各地方団体事務局長が出席し、次の議題等について打合せが行われた。

- 一、恩給・共済年金関係
- 二、公社への要望事項関係

三、電電改革法案関係

四、その他

この時期丁度電電改革法案が国会で審議されており、公社の民営化は必至の情勢の時であり、また国鉄救済のための年金統合が実施され続けている五九年度共済年金ベアが、一・九パーセントと極めてOBにきびしい試練が続いている中での会であった故もあって、井上会長のあいさつにも、内に強い熱気を感じ、また石井企画室次長の電電改革法案概要解説の中でも、ここ三十年間の公社の移り変りの歴史が、今また正に現実動いているという実感が強く、自然活発な質疑が繰り広げられ、時間一杯緊張した中での有意義な打合会であった。

余 栄

ご逝去されました左記の方々に対し多年電気通信事業に貢献されたご功績により叙位叙勲が行われました。

- 勲八等瑞宝章(五八・八・二〇)
故 伊 藤 末 弘 殿 (高知)
- 正七位勲七等瑞宝章(五八・八・二一)
故 柳 瀬 市 郎 殿 (佐川)
- 正七位勲七等瑞宝章(五八・九・七)
故 宮 崎 政 一 殿 (松山)
- 正七位勲五等瑞宝章(五八・九・二七)
故 往 田 祐 一 殿 (松山)
- 勲六等瑞宝章(五八・二〇・二二)
故 山 本 久 壽 彌 殿 (高知)

- 従六位勲五等瑞宝章(五八・一・一〇)
- 故 大原 萬造 殿 (丸龜)
- 正七位勲六等瑞宝章(五八・一・一六)
- 故 橋 本 進 殿 (板野)
- 従六位勲六等瑞宝章(五八・一・二九)
- 故 吉 見 春 雄 殿 (宇和島)
- 勲六等瑞宝章(五九・一・一〇)
- 故 大 利 春 樹 殿 (高知)
- 正七位勲六等瑞宝章(五九・一・二三)
- 故 道 倉 忠 男 殿 (高知)
- 正七位勲五等瑞宝章(五九・一・二八)
- 故 古 佐 小 常 三 郎 殿 (長尾)
- 正六位勲五等瑞宝章(五九・三・三三)
- 故 塚 善 一 殿 (高知)
- 正五位勲五等瑞宝章(五九・四・二二)
- 故 大 塚 裕 司 殿 (松山)
- 従六位勲五等瑞宝章(五九・五・二二)
- 故 山 下 武 夫 殿 (松山)

表紙のことは

むくげ 莊野 丹秀 (内海)

庭のむくげを描く。

退職して古里に帰り十年。

あの時に植えたむくげの木もずいぶん大きくなった。

在職当時親しくしていただいた方々が懐しい。

いつまでも元気でありますように。独りアルバムを開いて見る。

初秋の一時。

共済会だより

電気通信共済会四国支部

福祉相談所

一、OB大学の学習状況

1 愛媛地区

六月八日 「やきもの創作」

場 所 砥部町 陶芸創作館

出席者 六九名

各自で陶土をひねり「やきもの」を創作し絵付けをしてやきあげる。陶土代を払い好みの絵を付ければ、あとは創作館でやいてもらえる。大作、珍作さまざまでした。

七月十三日 「人間のふるさと」

場 所 番町公民館

講 師 書家、澤田大暁氏

出席者 六二名

東洋の芸術である書を通して、人間の心のもちかたについて約二時間のお話でした。

2 香川地区

さきに、この会報でお知らせしましたが、香川地区でのOB大学の計画は、地元退職者の方々の協力により、近く具体的内容をお知らせできると思います。

多数ご参加下さい。

二、文化講演会

徳島地区

六月二十二日 「すこやかに老いるた

めに」

場 所 徳島電信電話会館

講 師 徳島通信病院長

坂東定矩氏

三、「ボランティア活動について」の調査結果について

先般、愛媛地区在居の退職者の方々を対象に調査しました。この結果は概ねつぎのとおりで、今後の施策の資料にしたいと思っております。ご協力ありがとうございました。

1 調査票「はがき」発送数 九九四

2 回答をいただいたもの 三一五

3 回答率 三二%

4 回答のあったものうち

(1) これまで参加したことがある。 五七(6%)

(2) 機会があれば参加したい。 一三〇(13%)

(3) 都合により参加できない。 一二八(13%)

又は不明 一二八(13%)

(4) 身体障害者等のご家庭にお見舞金を差上げます。

四、身体障害者等のご家庭にお見舞金を差上げます。

電気通信共済会では、身体障害者等のおられるご家庭にお見舞金をお贈りしております。お心当りの方はお申し出ください。

1 見舞金をうけられる要件

公社、全電通、共済会の退職者、退職者及び現職者の被扶養者である配偶者、子又は父母のうちに、つぎの要件に該当する者がいる場合、但し有職者は対象としない。

- (1) 身体障害者手帳の一級又は二級の交付をうけている者。
- (2) 重症心身障害児施設に入所中の者。
- (3) 精神薄弱者で重症と判定されている者。
- (4) 国の定めた難病(特定疾患、先天性内臓疾患など)で治療をうけている者。
- (5) 精神病院に三ヶ月以上入院中の者。

- 2 見舞金額
 - 1の(1) 一人当り年額三万円
 - 1の(2)及び(1)、(3)~(5)を重複しておられる者 一人当り年額五万円
- 3 問い合わせ先
 - 松山市南持田町四〇一三
 - 電気通信共済会四国支部
 - 福祉相談所
 - 電話 〇八九九一三二一三三三二二

OBサークルだより

電電OB春季軟式庭球松山大会

昭和五十九年度春季大会を桜花散る松山市堀之内コートにおいて四月二十一日(土)曇り空の肌寒い日に開催したが全員ハツラツとしたプレーをし熱戦を繰り広げた。

この日だけラケットを握る人も、目を見はるようなファイナルプレーを繰出し拍手をうけていた。

- 試合結果は次のとおり。
- 優勝 山崎盛久・溝田 実組 全 勝
 - 二位 松垣 博・磯山政照組 四勝一敗
 - 三位 福山岩雄・内藤福子組 三勝二敗
 - 四位 小松重幸・田内長兵衛組 二勝三敗
 - 五位 栗田 明・玉木 昇組 一勝四敗

六位 酒井三郎・二宮正己組 全 敗

試合終了後総会を開き部創設以来理事長を六年余もされた小松重幸氏が高令のため木村利一理事と交代顧問に就任され、また理事に福山岩雄氏が会計担当と兼務となる。

なお今年度新規入会されたのは川本文彦、松垣博、山崎盛久の三氏である。

(木村記)

◎新刊紹介◎

書名 「電信電話と共に」上巻三九八頁
著者 泉 節太郎
発行人 古川書房

東京都大田区上池台四ノ二九ノ三
振替 東京五一四五七七四

定価 一八〇〇円

内容 通信省・電気通信省・電電公社と三時代を通じ、電信電話一筋に生きた著者が、雑誌「通信評論」に、昭和五四年から四年間、四八回にわたり連載した、自伝的日本電信電話事業史。

付記 本書は著者の自費出版であるので、次へ郵便振替により直接申込みされた方は、郵送料は著者負担とする由。

申込先 松山市鷹子町九九八

泉 節太郎
〒七九〇
郵便振替口座 徳島九一〇四一七
電話 〇八九九一七五〇一五五

訃報

次の方々が逝去されました。謹んで哀悼の意を表しご冥福をお祈り致します。

氏名	死亡月日	行年	所属
田中 正美殿	59・6・28	六〇	高知
石崎 貞義殿	59・6・29	七四	宇和島
柴田トモ子殿	59・1・5	五六	松山
松本 正清殿	59・7・20	七六	坂出
高橋 藤吉殿	59・8・9	九七	松山
香川 清幸殿	59・8・28	五九	坂出
中 五郎殿	59・9・11	九〇	須崎
藤井 茂信殿	59・9・11	七五	板野
横山 竹義殿	59・9・24	七九	松山

随筆

筆



母の死と八十八ヶ寺

梶原 照秀 (徳島)

正月四日というのに洗濯好きの母が洗濯をすませ、二階の乾場に上る途中階段で足を踏み外し転落したのが原因で、左頸脈が破れ出血し脳溢血で倒れた。

当時妹は七才、お嫁にいくまで母に生きていて欲しかった。

春になれば、乳母車にのせて八十八ヶ寺所巡

りをし、一歩でも歩ける躰にしたいと、父は医者に相談したが、とてもそんなことのできる現状ではないと言われて父の望みもむなしく外れてしまった。

春も過ぎ夏がきたが、母の病状は快復の兆しが無く、近くに住んでいた祖母(父の母)も腰痛でギブスをいれての看病で、十分な養生もできない有様であった。

私も近くの協同組合の事務に勤めるようになり、生れて初めての給料を買った。母に欲しいものを何でも買ってくるから言っただけいいと言ったら、物言いの不自由な顔が只嬉しそうに微笑えんだ。

妹は不安そうな顔で、いつも母の枕もとにキチンと座り、母が用事ありそうな気配をすると、お父ちゃん、兄ちゃんと大声で呼ぶだけのこと。

暑い日が続いた昭和十年八月のある日、突然「お大師さまが舟に乗ってお迎えにきた」と何度も母が言う。無信心な母のこと、どうしてこんな言葉が飛びだしてきたのか、不思議でならない。

その夜、母の息は絶えた。倒れて七ヶ月の寿命であった。母は四十三才、父は五十才であった。

十月に私は大阪電話区に勤めることになった。年も変り妹が入学することになったので、妹に兄として何かしてやりたいと制服を送ってやった。入学式には祖母が付き添った。

年も過ぎ、母の十三回忌の法事をするからと連絡があり、当時松山に単身赴任していた私は、早速帰郷した。

その時、父から妙な夢の話が聞かされた。

法要の前の晩、母が今治の寺に無事に着いたから、みんな安心してほしい、という夢。

父はこの夢を大変気にして、私に、松山へ帰る途中だから今治のお寺へお詣りをしてくれと頼まれた。今治市内には、五十六番泰山寺、五十五番南光坊、五十四番延命寺の三寺があることがわかったのでお詣りをすませた。このことが縁になり、八十八ヶ所を巡拝する動機となった。五年がかりで結願した。

今年も弘法大師の一一五〇年に当る。父は六十九才で亡くなったが、偶然にも今年私は六十九才を迎えた。今年中に二回目の巡拝満願をしたいものだと思っている。

今日も、讃岐霊場六ヶ寺をお詣りして帰ってきたところである。

若葉が匂い、つつじが咲いて、山も町も一段と美しいよい季節である。

老人の戒め

木村利一(松山)

人間年をとるに従って自然に寺詣りをするようになる。私も勤めをやめてから四国八十八ヶ寺詣りをし、昨年からは三ヶ年計画で西国三十三ヶ寺詣りをしている。

先日西国第二十九番青葉山長尾寺に参詣したとき、住職が書いた「老人の戒め」を見て大いに反省させられたので、ご紹介します。

一、紅葉は春の花よりも更に趣あり。

若きより老いて後人は円熟す。

二、昔日を自慢すべからず。人の価値は

今日に定まる。励むべし。

三、余命少なき一日は若き日の十倍の価値あり。慎むべし。

四、世間に陰徳の種子まけば家門に陽報の花咲かん。努むべし。

五、いまだ死を免れたるものはあらず。迎える時は安んじて旅立つべし。

どへんこつ

高原 博(阿南)

人情には厚いが、素直に人の言うことを聞いたり、自分のやり方を変えたりはしない。強情で分らず屋だと言う人もあるが、自分の信念に従って行動し、曲ったことが嫌いで一角の見識はもっている。態度も堂々としていて古武士の風格がある。

こんな人間を、阿波では一口に「どへんこつ」と言う。土佐ではイゴッソー。讃岐ではホッコマイ。肥後ではモッコス。薩摩ではボツケドン。津軽ではジョッパリと言うそうだ。

吉田茂や三木武吉、行革の土光さんなどがこれに類する典型的な人物で、笠智衆や東野英治郎扮する一連の人物にもその類を見かけたものであるが、戦後も四十年に垂んとする今日、文化的生活を享受する時代になってしまいいま、この種の人間を見かけることが、いよいよ稀になったのは何としてもさびしい限りである。



感動、そして春の旅

浜 口 徳 幸 (松山)

今年は気候が変調で、さくらは例年より十日も遅れました。四月は、私には皇居奉仕と観光の旅に出ることが恒例になっています。愛媛県皇居奉仕団に参加して、皇居の清掃奉仕をしたあと、四・五日の日程で観光旅行をもう三年も続けております。

皇居奉仕については、再三この会誌に載せてもらっていますが、今年には特に感銘深かった天皇陛下のお言葉をお伝えします。

例年、勤労作業中に必ず一度は辛いのお言葉をいただくのですが、数団体の奉仕団のことですから、今まではお声が聞きとれませんでした。今年には両陛下のお立ち台間近くの位置でしたので、つぶさに拝聴できました。

「勤労ご苦労に思う。皆の元気な姿に接しよるこぼしい。今後とも国家社会のため、それぞれの勤めに励んでくれることを希望する。」まことに簡単なお言葉ですが、感激の一瞬でした。全員これにお応えして国歌を斉唱し両陛下の萬歳を唱えました。

清掃奉仕を終えたあと、今年の旅行は東京ディズニーランドで初日を楽しみ、日光東照宮、中禅寺湖、西那須野をめぐって塩温泉で一泊し、猪苗代湖、郡山を見て磐城へ出、常磐湯本で泊りましたが、このハワイアンセンターは異色でした。続いて東海村、水戸階楽園、鹿島神宮とまわり、娘船頭で名のある潮来で一泊しました。

帰途、犬吠崎と義人の佐原に寄り、成田不動にも参拝しました。

ともあれ、春の旅はどこへ行っても花ざかり、気分が良いものです。これからも健康で楽しい旅行を続けたいものと思っております。

泉さんの著「電信電話と共に」を読んで

政 本 邦 興 (松山)

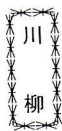
泉さんは今までにいろいろの本を出されているが、今回その集大成ともいえるべき大作「電信電話と共に」(上巻約四〇〇頁、下巻も近日発売)を東京の古川書房から出された。これは泉さんの八〇年にわたる永い人生の、奮斗努力の自叙伝であると同時に、その間における電信電話事業変遷の、長い歴史の側面を物語る貴重な実録であり事業史である。しかも、この内容は数拾年にわたり、そのつど刻明に記録されてきた日記によるものだけに、記述は極めて正確、鮮明に浮き刻りにされており、おもてからみても裏からみても、十分興味深いものとなっている。

私は公社内に在っては、泉さんに直接話したことはい度もない。しかし退職後は四国電話印刷で、社長対総務部長ということまで長い間ご指導を得たが、あまり身近に居すぎたものだから、今にして思えば泉さんの真髓はついにとらえずじまいだったような気がする。今この本を読み終わって、はじめて、その真情つまりかくされた一面を、併せ正しくとらえることよって、泉さんの真髓に接し得たような気がしてならない。この本の内容に盛られた記述と感想は、いたって正直で、その一部は当時の当事者にとって生々しすぎ

るくだけがあるかもしれないが、それだけに訴えるものがあり、評価できるのかもしれない。泉さんのお人柄については大山澄太さんが、その序文にも書かれているとおり誠実そのものであるが、内には冷静な理性と強い信念を秘め、外には達観した人間的温か味を感じさせる方である。

殆ど同時代に生きた電信マンがそうであったように、通信講習所のトンツを振り出しに永く電信電話事業に従事した者達の多い中であって、常にその先端を走った泉さんの存在と活躍、その体験に基づく実録に、共感を呼ぶ面が多いのもけだし当然であろう。読み進むほどに、併せて自分の過去の過去を連想し、昔を懐しむよすがとなることは私一人ではないと思われる。公社退職のみなさん、秋の夜長のひとときを、今では純化されたそれぞれの遠い思い出にふけり、楽しくすごすために、なにはともあれ一度これに目をお通しになることをおすすすめいたします。

必ずやその内容から、はたまたそれを通じて得た自己の回顧から、心に残るなものも十分に引き出せるのではないかと私は思います。



福 田 秋風郎 (松山)

墓一つ残る故郷へ還る夢

ミサイルの飛ぶ世を今に五ツ珠

そして朝あゝ定年の床を出る

日々好日この世に憎む人がなし

水道の匂いも今や夏さな

身辺雑感

渡部 貞好 (松山)

芙蓉

玄關脇の芙蓉がここ一週間許り、毎日十五、二十の花を開く。日照り続きで水をきらせて花を開かず力が失せてはならんと心配し、毎朝・夕、根っこにタツプリ水を遣っている。天気の良い日は、早朝その日開く半分近くの花が、既に薄桃色の花辨を一杯に拡げて、庭の一隅を鮮やかに染めている。春さきまでは去年坊主に切られた白っぽい株が、草はもう萌えているのに芽吹きもせずあたり不釣り合いに取り残されているかに見えていたが、一っせいに芽を出して四方へ延び、傘を開いたように中高くいい格好になり、三百余りの蕾をつけた。それが今、順次花を開いている。花芙蓉は、桜や梅のように一っせいに花開く満開というのではなく、開いた花は一日で花を閉じ、明日開くものに順を譲る。緑の葉に映えて妍を競う花芙蓉は、優雅で大変好ましく今しばらくは、目を楽しませてくれることだろう。

蛸

四月の終りに岬の松林で今年初めての松蟬を聞いた。あれから日毎に日が永くなり、汗ばむ日が続くと、蟬の声も増え、街なかの木にも油蟬が出てきて盛夏を呼んだ。蟬は地中に三年も五年ももぐっていて、地上へ出て羽化する二十日位で一生を終えてしまうと聞いている。

子供の頃蟬とりに行き、籠にとじこめた気

憶があるが、地上での短かい一生というのにむごい仕打ちをしたものだと思まれる。

夕日を受けた裏の松山で蛸がカナ／＼と呼び合うように啼くと、腕白盛りの胸にしみ込むようにうつろいの淋しさみたいなものがささって来て、うら悲しくなったものだが、中学に行くため親もとを離れて初めて下宿した年の夏、母が訪ねてきてくれた時に、遠山の蛸を二人で聞き乍ら、その話を母にしたら黙って私の目をみつめながら頭を撫でてくれたことが、今に忘れられない。

I N S

この頃、新聞、テレビ、ラジオで電電公社のことを見きさせぬ日は無いと言っている程、公社が話題にのぼる。もともと国鉄の赤字が年を追うてふくらみほうって置けない状況から、行革の目玉になった筈なのに、優等生の電電公社が道連れにされ、今では国鉄の再建が霞んで、電電公社が斯うも話題になるのは、民営化による各方面の享けるうま味が余りにも大きく、見のがしできぬ魅力があるためかな……と、思ってみたりもする。

電電公社のINSモデル実験が、九月二十八日三鷹でスタートした。二十一世紀へむけての通信の大革命が今起きつつある。

四月発足予定の新電電は、INSの今後の普及と深い関連を保ちながら、社会に、企業に、家庭に、通信を通じての未来の夢を実現してくれるであろうことを確信する。

投稿規定

- 一 会員消息 四〇〇字以内
 - 二 短歌、俳句、川柳 五首又は五句以内
 - 三 随筆、随想 六〇〇字以内
- 原稿締切 一月一〇日
原稿の取扱についてはお任せねがいます。

編集後記

▽残暑が殊のほか遅くまで続き、九月の三日連休の日中など真夏を思わせる暑さでしたが、さすがに木蔭にはいると吹き抜けてくる風は秋のもので、蔓珠沙華が畔徑を染め、秋桜が邸の庭に揺れている風情は初秋の姿そのものです。本号がお手許に届く頃には、早い所では祭囃子が賑やかに聞こえてくる事でしょう。▽国家公務員との年金統合後の裁定替え作業も進められており、裁定替え後の年金額も気になります。国家公務員のベア率の確定が大いに気になるところです。▽さわやかな好季です。蒼空の野山に出かけ健康な体力作りに励んで、到来する寒い季節にそなえることにいたしましょう。(渡部)

電友会四国連合会会報 第四八号

昭和五九年一〇月一日発行

編集発行 電友会四国連合会 事務局

松山市一番町四丁目(千七九〇)

四国電気通信局内

電話(〇八九九)三六一二〇二三

印刷 四国電話印刷株式会社

愛のオレンジライン

安田成美
YASUDA NARUMI

オレンジラインは、みなさまと電電公社を結ぶホットラインです。お寄せいただいた声を、サービスの改善に反映させていきます。



おきかせください、あなたのご意見。

オレンジライン

あなたの町の電話局オレンジカウンターへ、お気軽にご意見をお寄せください。
四国電気通信局 オレンジナンバーは、(0899) 25-2800番〈無料〉です。

にっこり にこやかオレンジナンバー